

＜理念＞

安全で最適な医療を提供し、「愛し愛される病院」として社会に貢献する。

＜基本方針＞

1. 私たちは、「求められる」医療を提供するために創意工夫します。
2. 私たちは、地域連携を強化し、地域包括ケアシステムに貢献します。
3. 私たちは、コミュニケーション能力を備えたプロフェッショナルな職員を育成します。
4. 私たちは、情報技術を最大限に駆使して「未来から選ばれる病院」を目指します。
5. 私たちは、病院内に痛みや苦しみがなくなるように全力を尽くします。

板橋中央総合病院公式 SNS



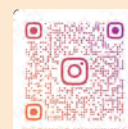
「Ita Tube」



板橋中央総合病院
Instagram



産婦人科
Instagram



〒174-0051 東京都板橋区小豆沢 2-12-7

都営地下鉄三田線「志村坂上駅」下車 A1 / A3 出口より徒歩 1 分

03-3967-1181 (代表)

<https://ims-itabashi.jp/>



病院受診、入院・介護施設選びに困ったら
イムス総合サービスセンター(GSセンター)へ



GSセンターにお電話かHPのメールフォームでご相談を！
相談窓口専任スタッフがみなさまのお悩みをお伺いします。

IMSグループ医療機関の選定、医療機関・制度などの情報提供。
GSセンターで可能なコーディネート内容の紹介など。

ご希望とマッチングした際、IMSグループ医療機関へ受診決定！
【外来受診】受診希望施設へ受診日・時間（予約含む）・
対象者さま基本情報等の連絡
【入院（所・居）・転院】希望施設の医療福祉相談室担当者を紹介

好評配信中
疾患別セルフチェック

健康セルフチェック

gscenter@ims.gr.jp

◎右のQRコードをご利用いただくと便利です。
◎24時間365日受付。2営業日以内に返信します。

※「050」からはじまるIP電話および国際電話からはご利用いただけません。
受付時間／平日 8:30～17:30 土曜日 8:30～12:30（日祝・年末年始休み）

イムス総合サービスセンター
<http://www.ims.gr.jp/gscenter/>

PLAZA IMS

新年号 Vol.78

板橋中央総合病院

「プラザイムス」は、患者さま、ご家族のみなさまに院内やIMSグループの医療活動、病気に関する情報をお伝えするコミュニケーションペーパーです。

CONTENTS

「未来の医療」と「初心への回帰」

2025 年__次世代の病院づくりが動き出す

Itachu News

新年を迎え、当院の附属病院である板橋セントラルクリニックに新しいリーダーが誕生します。小児科齋藤宏主任部長が院長に就任し、新たな一歩を踏み出します。今回は、4年後に新病院建て替えを控えている板橋中央総合病院の加藤院長との対談を通して、未来への展望や新病院建設の魅力について語り合っていました。

板橋セントラルクリニックはどんなクリニックでしょうか？強みなど教えてください。

齋藤 板橋セントラルクリニックは医療機関の単位としては「診療所」（注）ですが、最大の強みは板橋中央総合病院と隣接している点です。すぐに精密検査もできる、場合によってはそのまますぐ入院することもできる。いわば「大きな病院を持つ開業医」のような感じだと思います。

（注：診療所は病床 20 床未満、病院は病床 20 床以上）

～夕方 5 時）を夜 9 時や 10 時頃まで延長したいとも考えています。その背景には、夜間診療の需要が高いことがあります。就学後のお子さまの場合、学校から帰宅後に体調を崩すことが多いのですが、救急外来以外に診療を受けられない状況が多いのです。実際、近隣にある 365 日夜 9 時まで診療しているクリニックでは、夜間の患者数は多く、地域全体で夜間診療の必要性が感じられます。ただし、診療時間を拡大するには、医師だけでなく、看護師や事務職員、さらに近隣薬局の協力も欠かせません。これらの課題を一つずつ乗り越えることで、より長時間の診療を実現し、地域にさらに貢献できると信じています。

医師の働き方改革によって見えてくる診療の可能性—

加藤 医師がタイムシフトすることで需要に応えていけるかもしれませんね。

「未来の医療」と「初心への回帰」

2025 年__次世代の病院づくりが動き出す

板橋セントラルクリニックの中でも齋藤先生の診療科である小児科は、2020 年に板橋中央総合病院内に小児科病棟や小児救急をオープンしました。今まで患者さまの様々なニーズに応じてまいりましたが、今までの変遷から今後の展望をお伺いしたいです。

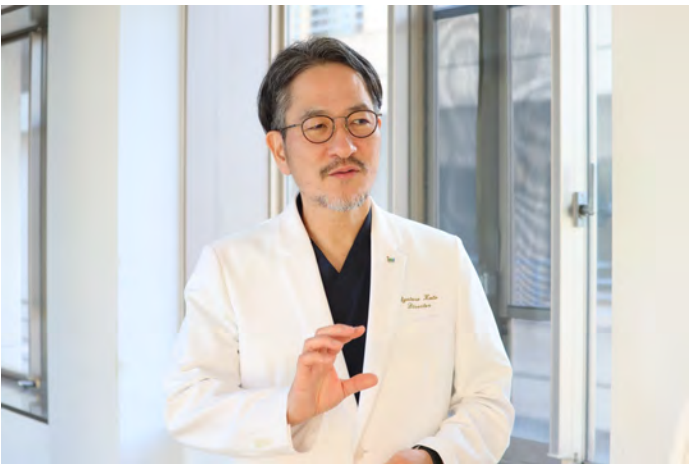
齋藤 この 5 年間で良かったことの 1 つは、かかりつけの患者さまがとても増えたということですね。繰り返し入院されるお子さまがいらっしゃいますが、ご両親がある程度安心して私達に任せてくださっているのを感じます。以前、救急にお子さまを連れていらしたお父さまが、子どもの病状が分からないものの、お母さまから「板中に行けば何とかしてくれる！」と言われて連れてきたとおっしゃっていました。その時お母さまはご自身が入院中で、お子さまを連れて来られない状況だったようですが、そのように我々を信頼いただけるのはとても嬉しいですね。

小児科では、風邪のような一般的な病気から重症例や外傷まで、幅広く対応できることが大きな強みです。例えば、この地域には夕方 5 時以降でも子供の外傷に対応できる医療機関が殆どありませんが、当院では小児科医が外傷にも対応し、地域のニーズに応えています。板橋セントラルクリニックでは、現在の診療時間（朝 9 時

小児に限らず、夜間や早朝に具合が悪くなる病気は多いと思います。一般的な医療体制であるとはいえ、当院でも朝 9 時～夕方 5 時には医師が 200 人勤務している一方、夕方 5 時～朝 9 時には当直医 10 人しかいないというのはバランスが悪いですね。だから夕方 5 時～朝 9 時にどうやって手厚くするかが課題です。もしかしたら、診察室も朝 9 時～夕方 5 時まで 5 部屋開けるよりも 3 部屋でいいから 24 時間 365 日を開けている方がいいかもしれない。そのためには、看護師のように、夜勤シフトを担う医師が必要となるかもしれませんが、私たちの意識を変えることで、現状の医師や部屋の数を変えずに、さらに多くの患者さまの需要に応えることができるかもしれません。もちろん、働く上で人それぞれ家庭の事情など不都合なこともあるとは思いますが、夜だけだったら日中は子供の面倒を見ることができるからいいとか、逆に都合が良い場合もあると思います。当院には多くの職員がいて、色々なニーズがあるので、意外とうまくいくのではないかと思います。地域の需要に応じていくことが、医師の働き方改革につながって、好循環が期待できるかもしれませんね。

板橋セントラルクリニック 院長
齋藤 宏

板橋中央総合病院 院長
加藤 良太郎



まさに当院の理念にあるように、これからも変わらず安全で最適な医療を提供することで「愛し愛される病院」として地域の皆さまに貢献していきたいですね。

加藤 本当にその通りですね。今、世の中では戦争や異常気象、そして物騒な事件が続きなかなか明るいニュースが少ないように感じます。そんな時だからこそ、医療現場では少しでも「ほっとできる安心」を届けたいと思っています。コロナ禍では科学の力によってワクチンが開発され、収束に向かうことができました。そして、新しい抗がん剤の登場など、医学の進歩が患者さまの未来を明るいものに変えています。科学の世界には明るいニュースがけっこうあるので、それを感じられるような、「希望が見える医療」を提供していきたいと思っています。当院が目指すのは、病気や治療の不安を和らげ、患者さまが人の温かさを感じられる場所です。家族がいない方には、職員が家族のように寄り添い、心の支えとなるように努めてまいります。病気は決してポジティブなものではありませんが、そんな時こそ人と人とが支え合い、助け合うことで生まれる「ぬくもり」や「つながり」を感じていただけたらと思います。病院は、主に病気を治し、検査をする場所です。しかし、それだけではなく、安心や温かさ、優しさを感じられる場所であって欲しいと思います。患者さまから「板中にきて良かった」と思っていただけの病院であったら素晴らしいかなと思います。

齋藤 院長がおっしゃる通り、私たちの仕事の原点は病院の理念にあると思います。当院の理念には「愛し愛される病院」とありますよね。「愛」というと少し恥ずかしいですが、僕たちの仕事は対象が患者さまであれ、ご家族であれ、地域の医師の皆さまであれ、僕らができることを最大限に行う、その方々のために自分達ができることを最大限、愛情を持って提供したいと思っています。医療を提供することで、みんなが幸せになれば嬉しいじゃないですか。喜んでいただけることを行う、奉仕する、そのような気持ちでスタッフみんなが対応してくれたら、より良い組織になると思います。理念はただ覚えるだけでなく、自分のものとして行動に落とし込むことが大切です。「理念」

という軸がぶれなければ、さまざまな個性や考えを持ったスタッフでも、自然と一つにまとまる力が生まれます。私が大好きな「愛し愛される病院」という当院の理念に忠実であり続けることで、より良い病院、より良い組織になれると信じています。仕事は「やらされるもの」ではなく、誰かのために「自分から動くもの」です。能動的に働き、誰かを幸せにすることに喜びを感じるスタッフが増えることを願っています。



加藤 齋藤先生の言う通り、理念に忠実な病院にしていきたいですね。

その意味では初心に返るというのもすごく大事だと思いますよね。

初心＝原点と言えば…

初心に立ち返る時、やはり忘れてはいけなはのは IMS グループの前身である「板橋中央病院」の開院当初のことです。わずか5床のベッドからスタートした板橋中央病院は、IMS グループ現会長・中村哲也先生のお父さま、哲夫先生とその兄弟の3人が「地域に感謝される病院を作ってほしい」というお母さまの願いをかなえるために開設されました。この病院の発展には、多くの人の支えがありました。皆で力を合わせ、資金を出し合い、病院を少しずつ大きくしてきた歴史があります。患者さまに愛されることはもちろん、職員同士も「愛し愛される」ことを大切にしてきた結果、今の IMS グループがあります。しかし、規模が大きくなると、初心を忘れがちです。だからこそ、来年は「なぜこの病院を始めたのか？」という原点に立ち返る大切な年にしたいと思います。

2025 年は、新しい一歩を踏み出す大切な年です。4年後の2029 年には新しい病院がオープンする予定ですが、その計画が本格的に動き出します。そして、齋藤先生が板橋セントラルクリニックの新しいリーダーとして、更なる進化を担っていきます。巳年は「新しいことを始めるチャンスの年」とも言われます。だからこそ、初心に戻り、どのような想いで当院の理念が作られたのかという原点を改めて思い返す、良いタイミングだと感じています。

2025 年は4 年後に控える新病院建て替えに向けた第一歩となりそうですね。スタッフ一丸となり進めていきたいですね。現段階での新病院のイメージを少し教えていただけますか。

加藤 今回の新しい病院づくりは、これまでの取り組みとは大きく違います。おそらく、コンセプト作りから現場のスタッフ関わっているのは、グループとしても初めての試みではないでしょうか。新しい病院は、ただ壁が新しくなるだけではなく、未来の医療を想定した「未来の病院」を目指しています。

大きなテーマの一つは、「職員にとっても使いやすい病院」です。それは単に休憩室があるということではなく、効率的に動ける動線、ストレスなく働ける環境、そして異なる部署同士でも連携しやすい仕組み等を考えています。職員にとっても「愛し愛される病院」をつくるのが、結果として患者さまに質の高い医療を届けることにつながると信じています。どうぞ、完成を楽しみにしてください。



新病院建設に向けた 2025 年。

どのような目標に向かっていきますか。

加藤 目標は三つあります。一つ目は、当院の「DNA」とも言える救急医療の強化です。特に、小児救急を扱う医療機関が減っている中、当院では地域の小児救急をしっかりと支えていき

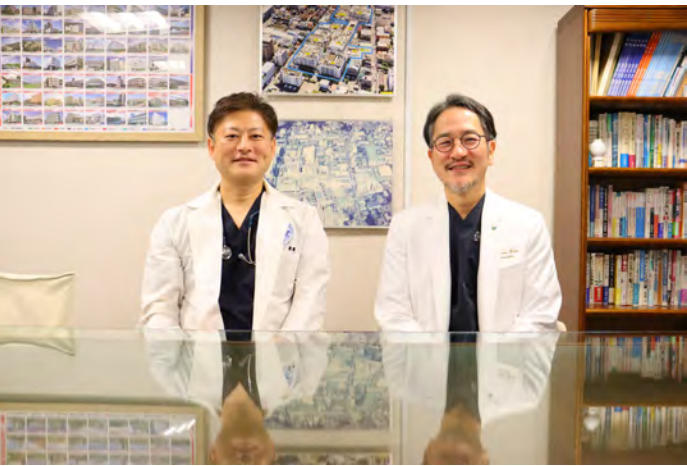


いと考えています。また、板橋セントラルクリニックと連携し、救急と外来のバランスをとりながら、患者さまとスタッフ双方にとって良い環境をつくっていきます。二つ目は、高齢者医療の拡充です。2025 年以降も高齢者人口は増え続け、複数の疾患を抱えた患者さまがさらに多くなります。臓器ごとの診療にとどまらず、より総合的なケアを提供し、シームレスな診療を目指します。三つ目は、病院ならではの手術や検査の拡充です。医師の働き方を見直し、役割分担を進めることで、チーム医療をさらに強化していきます。来年は、これらの目標をしっかりと形にし、患者さまにより良い医療を提供できるようにしたいと思います。

最後に、読者へのメッセージをお願いします。

齋藤 「愛し愛される病院」という理念のもと、私たちは常に何ができるかを考えています。患者さまやご家族、地域の方々に寄り添い、支え合う病院であり続けたいと思います。

加藤 医療はただ病気を治すだけではなく、安心や温かさを感じられる場所であるべきです。2025 年、そしてその先の未来に向けて、スタッフ一丸となり、地域の皆さまとともに歩んでいきます。



2025 年__新たな挑戦が始まる年。「未来の医療」と「初心への回帰」を胸に、次世代の病院づくりが動き出します！



2024 年度祝日診療のご案内



2024 年度の祝日診療は
2/24(月・振替休日) になります。
午前のための診療となります。どうぞご利用ください。

マイナンバーカードでマイナタッチのご協力をお願いいたします

マイナンバーカードの保険証利用登録をお願いいたします。
利用登録は E 館 1 階再来機横、入退院受付、
C 館 1 階地域医療連携室横、セントラルクリニック 1 階
(カードリーダー) でご登録いただけます。



第 66 回キャンドルサービスを開催しました！

12 月 13 日 (金) に第 66 回キャンドルサービスを開催しました！
昭和 33 年から続く I M S 伝統の行事で、入院患者さまの回復を願い、季節感を味わっ
ていただくために行っている看護部主催の催しです。
キャンドルの火のように、これからも患者さまとそのご家族に、希望と癒しを届けて
まいります。



当院の呼吸器外科 診療部長 小林 零医師がラジオ番組に出演しました！

2024 年 12 月 1 日 (日) 5:00 ~ 5:30 ニッポン放送「ひろたみゆ紀のサンデー早起き有楽町」に
出演しました！
リスナーの方に向けて肺がん予防の啓発を行うことを目的に、肺がんはどのように見つかるの
か、検査が必要な場合はどのような検査をするのか等について、パーソナリティとの質問形式
で小林先生がお答えしました！

当院の産科がたまごクラブに掲載されました！

当院の産科が 2024 年 12 月 13 日発売の初めてのたまごクラブ冬号にて紹介されました！
石田副院長と古川師長が取材を受け、産科チームみんなで妊産婦さんをみるという姿勢を
大切にしており、出産後も長期的で切れ目ない支援を目指していることをお話ししました。

職員防災訓練を実施しました

訓練シナリオを用意し、実際の災害を想定しながら
訓練に臨みました。
災害時は、部門によって異なる役割を冷静かつ迅速
に全うすることが求められてきます。多くのことを
学べた実のある訓練になりました。



東京都地域救急医療センターに参画しました



12 月 1 日より、当院は東京都地域救急医療センターに参画
しました。
地域救急医療センターとは、救急隊の医療機関選定において
搬送先が決定しない場合に、救急隊と並行して、受入先の調
整を行う医療機関です。
これからも、地域医療を担う急性期病院として、安全で質の
高い医療を 24 時間 365 日提供していきます。